

東京社保協第47回総会・資料集

2017年3月30日（木）けんせつプラザ東京

介護関係

- 1～2 東京の介護保険認定者数（2015年5月現在）
- 3 第6期介護保険料比較調査
- 4 総合事業への移行時期調査
- 5～6 新総合事業の各自治体の動向
- 7 新総合事業の検討実施状況についての要請・質問項目（案）
- 8～9 都民要求・東京都に対する会議要望
- 10 介護保険の改善を求める要請書（ヒナ型）
- 11 第6期介護保険事業計画に関する懇談・要望（ヒナ型）
- 12 介護保険制度改定事業所アンケート（原本・東京分）
- 13～16 介護事業所アンケート結果（中央社保協）
- 17～21 介護事業所アンケート（概要・介護をよくする会）



東京の介護保険認定者数

2016年9月末現在

保険者	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	認定者 合計	65歳以上人 数(16年1月)	認定 率	要支援 者率
合計	86,316	71,984	113,146	97,709	72,396	68,810	59,076	569,437	2,999,105	19.0	15.2
千代田区	385	229	374	418	280	282	269	2,237	10,713	20.9	17.2
中央区	657	526	845	835	706	568	447	4,584	23,133	19.8	14.3
港区	1,394	1,027	1,595	1,484	1,200	1,066	987	8,753	42,441	20.6	15.9
新宿区	2,181	1,757	2,479	1,971	1,400	1,593	1,403	12,784	66,585	19.2	17.1
文京区	1,076	801	1,682	1,452	1,046	1,070	977	8,104	42,081	19.3	13.3
台東区	1,481	1,268	1,888	1,684	1,094	1,059	878	9,352	45,519	20.5	15.8
墨田区	1,521	1,525	2,119	2,039	1,423	1,488	1,063	11,178	59,715	18.7	13.6
江東区	3,003	2,709	2,932	3,056	2,490	2,378	1,724	18,292	106,951	17.1	16.4
品川区	2,681	1,974	3,419	1,898	1,750	1,612	1,124	14,458	79,904	18.1	18.5
目黒区	1,509	1,466	2,428	1,964	1,395	1,381	1,261	11,404	54,244	21.0	13.2
大田区	4,069	4,586	5,703	5,680	3,944	3,798	3,583	31,363	161,046	19.5	13.0
世田谷区	5,002	4,582	7,501	6,814	5,106	4,736	4,242	37,983	177,537	21.4	13.2
渋谷区	1,842	1,457	1,386	1,145	1,018	943	875	8,666	42,101	20.6	21.3
中野区	2,831	1,790	2,551	2,018	1,446	1,487	1,257	13,380	66,809	20.0	21.2
杉並区	5,287	2,222	5,457	3,459	2,575	2,881	2,538	24,419	116,814	20.9	21.7
豊島区	1,651	1,492	2,244	2,058	1,662	1,408	1,230	11,745	57,162	20.5	14.1
北区	3,722	2,778	2,816	2,426	1,930	2,374	1,644	17,690	87,188	20.3	21.0
荒川区	1,290	1,168	1,894	1,644	1,096	1,154	852	9,098	49,401	18.4	14.2
板橋区	3,717	3,482	3,773	4,224	3,331	2,793	2,353	23,673	125,580	18.9	15.7
練馬区	3,326	3,831	5,914	6,841	4,365	3,754	3,417	31,448	155,042	20.3	10.6
足立区	4,466	4,344	4,823	6,384	4,509	4,419	3,889	32,834	165,910	19.8	13.6
葛飾区	1,852	2,713	3,241	4,750	3,167	2,610	2,336	20,669	110,439	18.7	9.0
江戸川区	3,615	2,571	5,166	3,743	3,112	2,808	2,224	23,239	141,493	16.4	15.6
23区小計	58,558	50,298	72,230	67,987	50,045	47,662	40,573	387,353	1,987,808	19.5	15.1

東京の介護保険認定者数

2016年9月末現在

保険者	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	認定者 合計	65歳以上人 数(16年1月)	認定 率	要支援 者率
八王子市	4,881	2,624	6,508	3,819	2,521	2,681	2,597	25,631	140,731	18.2	19.0
立川市	1,508	871	1,884	1,067	908	953	629	7,820	42,308	18.5	19.3
武蔵野市	452	487	1,364	1,346	963	873	659	6,144	31,251	19.7	7.4
三鷹市	1,108	822	1,664	1,211	837	872	786	7,300	39,127	18.7	15.2
青梅市	718	785	973	821	671	792	590	5,350	37,054	14.4	13.4
府中市	1,403	1,131	2,536	1,595	1,263	1,205	1,088	10,221	53,758	19.0	13.7
昭島市	605	592	1,067	772	740	572	544	4,892	27,694	17.7	12.4
調布市	1,720	1,532	1,678	1,578	1,087	1,045	873	9,513	48,237	19.7	18.1
町田市	2,995	2,008	4,418	3,352	2,343	2,204	2,050	19,370	108,461	17.9	15.5
小金井市	956	688	1,145	729	528	545	465	5,056	24,395	20.7	18.9
小平市	1,251	1,247	1,551	1,374	959	939	719	8,040	42,567	18.9	15.6
日野市	1,567	1,228	1,388	1,412	978	843	767	8,183	43,783	18.7	19.1
東村山市	1,045	714	2,390	1,208	841	769	756	7,723	38,500	20.1	13.5
国分寺市	697	584	1,258	836	847	553	533	5,308	25,948	20.5	13.1
国立市	485	418	730	511	424	330	403	3,301	16,523	20.0	14.7
福生市	194	219	413	372	292	293	239	2,022	14,211	14.2	9.6
狛江市	581	604	734	646	486	408	420	3,879	19,187	20.2	15.0
東大和市	563	556	824	579	397	402	302	3,623	21,815	16.6	15.5
清瀬市	659	498	900	607	459	465	400	3,988	20,303	19.6	16.5
東久留米市	859	712	1,270	732	667	561	460	5,261	31,397	16.8	16.3
武蔵村山市	394	371	501	474	337	356	266	2,699	17,784	15.2	14.6
多摩市	841	616	1,077	878	756	593	533	5,294	38,849	13.6	15.9
稲城市	340	380	507	396	279	302	254	2,458	17,726	13.9	13.8
羽村市	277	221	463	298	262	228	222	1,971	13,518	14.6	14.1
あきる野市	212	395	601	572	529	475	367	3,151	22,644	13.9	6.7
西東京市	884	839	2,342	1,821	1,416	1,225	1,041	9,568	46,465	20.6	9.2
市部小計	27,195	21,142	40,186	29,006	21,790	20,484	17,963	177,766	984,236	18.1	15.3
瑞穂町	125	213	177	243	158	179	137	1,232	8,712	14.1	10.1
日の出町	85	88	165	107	77	102	87	711	5,721	12.4	12.0
檜原村	15	10	25	47	42	34	36	209	1,099	19.0	7.2
奥多摩町	62	38	51	65	57	94	52	419	2,576	16.3	14.8
大島町	99	55	95	76	67	76	60	528	2,912	18.1	18.8
利島村	0	0	1	1	4	4	3	13	77	16.9	0.0
新島村	14	19	24	52	41	23	40	213	1,055	20.2	6.6
神津島村	12	18	35	12	16	21	19	133	543	24.5	9.0
三宅村	25	36	47	26	24	21	30	209	1,019	20.5	12.0
御蔵島村	4	3	2	0	0	2	1	12	53	22.6	33.3
八丈町	118	56	94	74	72	98	69	581	2,892	20.1	20.3
青ヶ島村	0	0	0	1	0	3	0	4	25	16.0	0.0
小笠原村	4	8	14	12	3	7	6	54	377	14.3	7.4
町村部小計	563	544	730	716	561	664	540	4,318	27,061	16.0	13.0

第6期介護保険料比較調査

2017/4/3

自治体名	第1期基準 保険料	第2期基準 保険料	第3期基準 保険料	第4期基準 保険料	第5期基準 保険料	第6期基準 保険料	6期-5期	
千 代 田 区	3,017	3,600	4,100	4,200	5,200	5,700	500	
中 央 区	2,980	3,740	4,560	4,260	5,260	5,920	660	
港 区	3,050	3,250	4,500	4,500	5,250	6,245	995	
新 宿 区	3,248	3,301	4,300	4,400	5,400	5,900	500	
文 京 区	2,983	3,317	4,683	4,383	5,392	5,642	250	
台 東 区	2,692	3,183	4,217	4,200	5,150	5,650	500	
墨 田 区	3,050	3,390	3,960	3,960	5,400	5,400	0	
江 東 区	2,900	3,300	3,800	3,800	4,800	5,200	400	
品 川 区	3,300	3,300	3,900	3,900	4,700	5,300	600	
目 黒 区	3,297	3,520	4,220	4,200	4,960	5,780	820	
大 田 区	3,067	3,200	3,900	4,100	4,900	5,600	700	
世 田 谷 区	2,967	3,117	3,983	4,186	5,100	5,850	750	
渋 谷 区	3,067	3,383	4,225	4,320	5,150	5,630	480	
中 野 区	2,992	3,400	4,050	4,075	5,266	5,664	398	
杉 並 区	2,942	3,000	4,200	4,000	5,200	5,700	500	
豊 島 区	2,982	3,308	4,363	3,867	5,190	5,790	600	
北 区	2,908	3,292	4,283	3,467	4,725	5,442	717	
荒 川 区	2,963	3,244	4,428	4,613	5,792	5,662	-130	
板 橋 区	3,083	3,083	4,300	4,117	4,450	5,375	925	
練 馬 区	3,100	3,300	3,950	3,950	5,240	5,825	585	
足 立 区	3,217	3,217	4,380	4,380	5,570	6,180	610	
葛 飾 区	3,043	3,320	3,650	3,840	5,180	5,980	800	
江 戸 川 区	2,920	3,220	3,700	3,700	4,800	4,900	100	
特別区合計	3,033	3,304	4,159	4,105	5,134	5,667	533	平均
八 王 子 市	3,167	3,450	4,308	4,130	4,898	5,408	510	
立 川 市	3,150	3,417	4,192	4,184	4,967	5,880	913	
武 蔵 野 市	3,300	3,700	4,700	4,700	5,160	5,960	800	
三 鷹 市	3,167	3,400	4,000	4,200	5,000	5,500	500	
青 梅 市	2,875	3,000	3,600	3,400	4,300	4,800	500	
府 中 市	3,175	3,300	3,950	3,950	4,850	5,225	375	
昭 島 市	2,967	2,967	4,100	4,350	5,350	5,700	350	
調 布 市	3,100	3,100	4,000	3,900	4,800	5,200	400	
町 田 市	3,300	3,700	4,700	3,950	4,920	5,383	463	
小 金 井 市	3,025	3,200	3,600	3,600	4,800	5,200	400	
小 平 市	3,000	3,200	3,700	3,600	4,700	5,100	400	
日 野 市	3,000	3,300	4,420	4,340	4,740	5,040	300	
東 村 山 市	3,150	3,250	3,850	4,050	5,284	5,750	466	
国 分 寺 市	3,075	3,075	3,708	3,825	4,425	5,733	1,308	

第6期介護保険料比較調査

2017/4/3

自治体名	第1期基準 保険料	第2期基準 保険料	第3期基準 保険料	第4期基準 保険料	第5期基準 保険料	第6期基準 保険料	6期-5期	
国 立 市	3,025	3,583	4,400	4,200	5,100	5,650	550	
福 生 市	2,942	3,383	4,600	4,292	5,209	5,792	583	
狛 江 市	3,025	3,025	3,950	3,950	4,500	5,250	750	
東 大 和 市	3,167	3,358	3,817	3,817	4,300	4,800	500	
清 瀬 市	3,175	3,400	3,983	3,983	4,862	5,683	821	
東 久 留 米 市	2,967	3,092	3,750	3,600	4,200	4,900	700	
武 蔵 村 山 市	3,017	3,683	4,325	3,992	4,544	4,725	181	
多 摩 市	3,042	3,383	3,850	3,850	4,283	4,550	267	
稲 城 市	3,000	3,300	4,400	4,400	4,400	4,800	400	
羽 村 市	2,867	2,867	4,000	4,000	4,000	4,500	500	
あ き る 野 市	2,800	2,800	4,200	4,200	4,300	5,000	700	
西 東 京 市	2,917	3,275	3,950	3,950	5,115	5,683	568	
26 市 合 計	3,054	3,277	4,079	4,016	4,731	5,277	546	平均
瑞 穂 町	3,083	3,083	4,275	4,200	4,850	5,350	500	
日 の 出 町	3,408	3,408	4,600	4,600	4,600	5,200	600	
奥 多 摩 町	2,942	3,842	4,217	4,217	5,470	6,200	730	
檜 原 村	3,000	3,000	3,300	4,300	6,000	6,000	0	
大 島 町	3,000	3,300	3,560	3,751	5,360	5,400	40	
八 丈 町	2,700	3,300	3,500	4,101	4,600	5,692	1,092	
三 宅 村	3,265	3,755	5,594	4,443	3,641	4,793	1,152	
新 島 村	3,100	3,100	4,400	4,130	4,200	5,700	1,500	
利 島 村	4,000	4,400	5,900	5,700	4,500	4,800	300	
神 津 島 村	3,600	4,700	5,200	5,000	5,100	5,800	700	
御 蔵 島 村	3,425	2,958	3,983	4,058	4,069	4,800	731	
青 ケ 島 村	4,000	4,000	5,500	5,500	5,500	6,200	700	
小 笠 原 村	2,510	3,780	4,560	4,639	4,640	4,640	0	
町 村 合 計	3,233	3,587	4,507	4,511	4,810	5,429	619	
総 合 計	3,084	3,352	4,198	4,153	4,897	5,454	557	平均
加 重 平 均	3,056	3,273	4,102	4,045	4,992	5,538	546	

総合事業への移行時期調査

2017年4月3日

自治体名	2015年 4月から	2016年 4月から	2017年 4月から	実施時期 未定	自治体名	2015年 4月から	2016年 4月から	2017年 4月から	実施時期 未定	自治体名	2015年 4月から	2016年 4月から	2017年 4月から	実施時期 未定
千代田区	1				八王子市	28年3月から				瑞穂町		10月から	1	未定
中央区		1			立川市			1		日の出町			1	
港区		1			武蔵野市	10月から				奥多摩町			1	
新宿区		1			三鷹市		1			檜原村		29年3月から		
文京区		10月から			青梅市				1	大島町			1	
台東区	16年3月から				府中市				1	八丈町			1	
墨田区		1			昭島市			1		三宅村			1	
江東区		1			調布市		10月から			新島村			1	
品川区	1				町田市				1	利島村				未定
目黒区		1			小金井市		10月から			神津島村			1	
大田区		1			小平市	28年3月から				御蔵島村			1	
世田谷区		1			日野市		1			青ヶ島村				未定
渋谷区		1			東村山市		1			小笠原村			1	
中野区			1		国分寺市		1			町村合計	0	2	9	2
杉並区		1			国立市	1				総合計	12	29	19	2
豊島区		1			福生市				1					
北区	28年3月から				狛江市		29年3月から							
荒川区	1				東大和市				1					
板橋区		1			清瀬市				1					
練馬区	1				東久留米市				1					
足立区		10月から			武蔵村山市		28年度中							
葛飾区		1			多摩市		1							
江戸川区	1				稲城市	1								
					羽村市				1					
					あきる野市		29年3月から							
					西東京市		1							
特別区合計	7	15	1	0		5	12	9	0					

*中野区が2016年から2017年に延期

厚労省調査	27年度中	28年度中	29年度中	未定
2015年10月調査	12	29	19	2

新総合事業の各自治体の動向

自治体名	移行時期	動向	訪問介護	通所介護
千代田区	2015年4月		①現行相当の訪問介護及び②自立支援訪問介護導入(▲16%の報酬)	現行相当で実施
中央区	2016年4月		①現行相当(指定介護事業者)②緩和型(介護事業者以外の参入可、報酬比▲22%)③住民参加型は2017年～	現行相当で実施
港区	2016年4月	サービス低下はしない	サービス内容・費用は現行通り	現行相当で実施
新宿区	2016年4月	サービス費用を月額から1回あたりに変更(住民参加)	緩和されたサービス60分以内で(現行比▲29%)	緩和型1回1.5～2時間で現行比▲19%)
文京区	2016年10月		当面は現状サービスで、今後、住民参加型のサービスを検討(報酬比▲46%)	緩和サービスを導入(報酬比▲44%)
台東区	2016年3月	希望者には原則として介護認定を案内する。	緩和型サービスを導入(サービス提供者の資格は問わない)報酬比▲10%	報酬比▲10%の緩和サービス導入(定員超過すると▲30%)
墨田区	2016年4月		現行相当で実施、但し、住民主体のサービスを検討	現行相当で実施、短期集中事業を検討
江東区	2016年4月		現行相当のサービスを▲17%に設定、緩和型は▲30%に	現行相当を週1▲12%、週2▲26%に、緩和型週1▲30%、週2▲35%に設定
品川区	2015年4月		訪問型サービスを、予防訪問事業と区独自の生活向上支援訪問事業に区分し、生活向上訪問は、予防訪問の▲20%程度に設定	緩和型として「生きがい活動」活性化支援プログラムを導入し報酬比▲56%(送迎・入浴加算を含めても▲25%)。ただし、事業者の「いきいき活動支援」を実施すると、基本報酬は上回る。(8割の事業所が実施)
目黒区	2016年4月	現行の国基準のサービスを残しながら、区独自サービスの導入、ボランティアサービスも検討	緩和サービス(生活援助中心)報酬比▲14%を設定	緩和サービス(3時間未満で▲17%)
大田区	2016年4月		現行相当と住民主体のサービスBのみ、緩和型は2018年3月までに実施(2016年からモデル試行)	現行相当のみ
世田谷区	2016年4月	月単位から出来高(回数単位)に	緩和A(研修受講者含む)60分以内1回ごとの出来高払い(週2回までで報酬比▲	緩和型(要支援1は週1回まで、要支援2は週2回まで(報酬比▲21%)
渋谷区	2016年4月	現行サービスに加えて緩和基準のサービスを実施。ただし、単価は「現行通り」?		
中野区	2017年4月		緩和型を検討する	緩和型を検討する
杉並区	2016年4月	月ぎめから出来高払いに変更	生活支援訪問Ⅰ(週1回で月4回まで)訪問Ⅱ(週2回月5～8回)、1回あたり45から60分、報酬比▲23%	通所Ⅰ・Ⅱ(訪問と同様基準で)1回120分以上で報酬比▲8%
豊島区	2016年4月	認定申請を経ず、相談センターで、基本チェックリストでふるい分け	現行相当で実施と区は言っているが実際は更新時に緩和サービスを導入している?	現行相当で実施(同左・緩和を検討中)
北区	2016年3月		現行の予防訪問介護サービスを提供	現行サービスと短期集中サービスを実施
荒川区	2015年4月	現行水準を維持(チェックリストは地域包括で対応)		
板橋区	2016年4月		緩和型(生活支援サービス)1回60分以内、報酬比▲15%	緩和型(要支援1は週1回まで、要支援2は週2回まで(報酬比▲21%)送迎・入浴は加算)、1回3～5時間程度で報酬比▲44%(加算しても▲36%)
練馬区	2015年4月		区独自サービス(1回60分以内)報酬比▲	区独自サービス(2～9時間)報酬比▲
足立区	2016年10月	検討中		
葛飾区	2016年4月	月ぎめから出来高払いに変更	家事援助のみと身体介護を加えたサービスに区分	1日当たりの利用時間を、5時間以上、3～5時間、2から3時間の3区分に、利用回数は要支援1が週1～2回、要支援2が週1～3回に
江戸川区	2015年4月		現行の基準で	現行の基準で
八王子市	2016年3月	本人の意向を無視したチェックリストの誘導はしない	緩和サービス(生活援助)45～60分研修修了者可、報酬比▲16%	現行相当で実施(緩和を検討中)
立川市	2016年4月	月ぎめから出来高払いに変更	緩和サービス(国基準の単価の約8割)無資格者の研修は2日で14時間)	緩和サービス(国基準の単価の約8割)
武蔵野市	2015年10月	現在サービスを利用している要支援者には、これまでと同程度のサービスを継続する	緩和サービスA(これまで介護保険対象外の市独自だった生活支援ヘルパー事業を充当)資格者1回単価▲15%市認定ヘルパー▲32%	市独自基準基準(1.5～3時間の1回当たり単価▲22%
三鷹市	2016年4月	検討中		
青梅市	2017年4月	チェックリストは実施するが、申請を妨げない		
府中市	2017年4月	ボランティア確保中		
昭島市	2017年4月	検討中まだ何も決まっていない		

調布市	2016年10月			
町田市	2017年4月			
小金井市	2016年10月			
小平市	2016年3月		現行型と緩和型の併用(緩和11.9%)、緩和サービス(生活援助)報酬比▲7% 住民主体のサービスBは2017年4月から	現行型と緩和型の併用(緩和3.3%)緩和サービス、報酬比▲7%
日野市	2016年4月	2016年は移行期、全面実施は2017年4月から	現行サービス型、緩和型、生活援助型の3つを想定、緩和型は報酬比▲20%、生活援助型は報酬比▲30%	現行、緩和、生活援助に加え、住民主体活動の4つを想定、緩和型、報酬比▲8～18%、住民主体型、報酬比▲22～
東村山市	2016年4月	月ぎめから出来高払いに変更	基準緩和サービスを実施	現行通りで実施(但し、単価を1回当たりに変更)
国分寺市	2016年4月	月ぎめから出来高払いに変更	訪問サービスA(現行報酬約8割) 無資格者の研修350分(5.8時間)	訪問サービスA(現行報酬比約8割)
国立市	2015年4月	無資格者の研修50時間	2種類の緩和型(①有資格者による生活援助報酬比▲23%、②研修修了者による生活援助、報酬比▲46%)	現行相当で実施
福生市	2017年4月			
狛江市	2017年4月			
東大和市	2017年4月			
清瀬市	2017年4月		現行比－5%で緩和サービスを予定	
東久留米市	2017年4月			
武蔵村山市	2017年4月	月ぎめから出来高払いに変更(緩和サービス)	基準を緩和したサービス(サービスA指定型・サービスA委託型) 報酬は現行の2～3割減で。無資格者の研修時間6～8時間で市又は事業所が行う	現行サービスのみ
多摩市	2016年4月	検討中		
稲城市	2015年4月	現行水準で移行したが、新規・更新期から徐々に緩和サービスに移行	緩和型を導入したが、委託費は現行通りで	緩和(通所A半日で▲30%)
羽村市	2017年4月			
あきる野市	2017年4月			
西東京市	2016年4月		緩和型(生活援助)有資格者▲8% 研修修了者▲17%	3時間以上で送迎ありは国基準、送迎なし▲15%
瑞穂町	2016年10月			
日の出町	2017年4月			
奥多摩町	2017年4月			
檜原村	2017年3月			
大島町	2017年4月			
八丈町	2017年4月			
三宅村	2017年4月			
新島村	2017年4月			
利島村	未定			
神津島村	2017年4月			
御蔵島村	2017年4月			
青ヶ島村	未定			
小笠原村	2017年4月			

「介護・認知症なんでも無料電話相談」から（中間まとめ）

2016 年 11 月 24 日

中央社会保障推進協議会

事務局次長 前沢淑子

はじめに

11 月 11 日（金）10 時～18 時、全国 都道府県をつないだフリーダイヤルで電話相談を実施。2010 年から始めて 6 回目となる今年の相談は、昨年につき「認知症の人と家族の会・東京都支部」からの 2 人の相談員の協力を得て 8 本の回線で 17 人の相談員が全国から寄せられた相談に対応した。

マスコミの対応と相談件数

今年は、NHK が朝 10 時から取材、13 時の全国ネットニュース（ネットニュースや BS 放送）で流れ、電話は絶えることがなかった。新聞赤旗・読売・朝日・新婦人新聞でも報道された。

相談件数は全国 26 都道府県から 102 件の電話があり、昨年の 15 都道府県 68 件を超えた。全国では、1 都 1 道 1 府 15 県（11 月 14 日に独自に大阪府・山口県が実施）で 351 件の電話を受け、昨年の 254 件を 100 件ほど上回った。

相談の特徴

東京社保協と共同して取り組んだ 102 件についての特徴は以下のとおりである。

相談者は、本人が 22%、家族が 72% で友人が 6% で、老老介護（70 代後半から 80 代）の妻や夫からの相談が多かった。介護している娘さんから一生懸命介護をしても姉から非難されるなどひとりで抱え込んでいる事例などもあり、電話で話を聞き苦労をねぎらったことが「少し気が楽になった」「はじめてわかってくれた」との声も聞かれた。

男女比では男性 28%、女性 70% で、老老介護の妻や一人暮らしの女性からの相談などが多かった。年齢は、30 代から 90 代までで 60 代～90 代までが 63% でその中でも 60 代が 25%、70 代が 22% と多かった。

相談内容は、介護保険の受け方から介護内容、施設やケアマネとの意思疎通や不満、サービスの内容など現状への不満や疑問、行き詰まっていることへの対応についての相談も多く寄せられた。傾聴のみの相談もあったが、そのことが相談者のやすらぎにつながった相談もあった。

相談の中で、認知症に関わるものは 33%（昨年 21%）で昨年と比べても多く認知症の要介護者への対応についての相談が多かった。目立ったのは「介護疲れ」「生活苦」が 34% で 3 件に 1 件であった。「サービスを増やしたいが限界」「親の年金と自分の預

金ではあと一年しかもたない」「老健をすすめられたが入所費用が払えない」「サービスを受けたいが利用料が払えない」などその内容は深刻であった。

相談事例について

昨年に比べて件数を上回ったのと深刻な内容が特徴であった。2015 年改定での内容が介護保険サービスがいつそう受けずらくなり、家族の負担が増している実態が明らかになった。以下、東京の各地からの相談事例を紹介する。

- ① 2 年前まで母の遺族年金と障害年金で生活。現在母は入所、自身は自立支援を受けているが生活苦しい。包括からデイサービスを進められるが利用料や食事代の負担が厳しい。65 歳での働き口は？預金は少しありカップ麺で過ごせば 1 年はもつ。自宅は母の名義で母には後見人がいる。（東京都・世田谷区 60 代女性）
- ② 85 歳位の友人（長男）の父親が認知症で入院していたが安定して退院。同居の息子（次男）が父に暴力振るい警察ざたになり措置入院となったが退院。タバコや金を欲しがり渡さないと暴れる。父の首を絞めることもあったがことが起こらないと警察は動けないと回答。友人がどこかに相談すると逆恨みも。大きなことになる前に何とかしたい（東京都・男性）
- ③ 80 代夫はパーキンソンとアスペルガー等と主治医に言われるがあまり相談にのってくれない。息子と同居。妻は夫の暴言などで別居。夫は 3 人で暮らしたいと大声で騒ぐ。どうしたらいいか？（東京都・八王子市・80 代女性）
- ④ 92 歳男・精神病・認知症で粗暴、暴力・家出、包丁もって脅すなど。12 月に嚥下事故で ICU、カニューレつけて要介護 5。入院中の病院から転院いわれるが老健も職員不足で対応できず。現在は歩行器使えるので要介護度が下がるかも。病院でも暴れて呼び出しが。（東京都・北区・60 代女性）
- ⑤ 平成 28 年 8 月腰椎圧迫骨折にて要支援 2。包括は感じ良かったが紹介の居宅 CM は威圧的でサービス押し付け。本人も自分も嫌気が。どうしたらいいか？（東京都・調布市・50 代女性）
- ⑥ 93 歳元気で歩行も大丈夫。寂しい。いつも仏様に迎えに来てと話す寂しい！（東京都・中野区・90 代女性）
- ⑦ 80 歳父、健康でフルタイムで働いている。母 2012 年アルツハイマー認知症。自力歩行で要介護 2 にしかない。自力でデイサービス週 3 日。徘徊が始まっている。入所は 100 人待ちだが月 8～13 万円かかり経済的に厳しい。厚生年金 2 カ月 35 万円、マンションの返済あり（東京都・男性）
- ⑧ ヘルパー利用契約訪問で試しに移乗してもらったところ倒された。事業者は契約断わる。今の事業所ヘルパーは「今日は休みます」と電話連絡で一方向的に来ない。利用者の泣き寝入り。区や CM に相談したが事業指導してくれない（東京都・60 代女性）
- ⑨ 72 歳夫は脳梗塞、パーキンソン。レピー小体型認知症がひどくなり暴力ふるったり

便失禁など。若い頃から短期。現在デイサービス週2回、訪看週1回30分、ショートステイ試したがダメ。子どもに迷惑かけたくない。病院系のCMで施設の相談しづらい
(東京都・足立区・70代女性)

⑩ 79歳妻認知症、本人頸椎ヘルニアで4年間家事をやる。妻は動きはいいが3分前の記憶なし。夜中食べまくる。デイは金銭的事情で増やせない(東京都・葛飾区・70代男性)

<都民要求・東京都に対する要望>

第4 介護

1 介護サービスについて

(1) 介護保険制度の改正に伴い、今年4月時点で、新しい総合事業が都内の6割を超える自治体で開始されています。それに伴い、総合事業によるサービスの内容や単価などに自治体間格差が生じています。東京都は、自治体間格差是正のための措置や指導を行うと共に、国に対して、制度の改善を要望して下さい。

また、東京都は、区市町村に対して介護保険料の減免措置など独自施策の実施・拡充をすすめるよう都として指導するとともに、国に対して、非課税世帯の介護保険料の公費軽減を消費税の動向に関わらず予定通り実施すること及び介護保険財源の国庫負担割合を増やすよう要望して下さい。また、在宅介護をされている方への見舞金制度など、東京都として独自の助成措置を講じて下さい。

(2) 介護保険料滞納者に、全都で「利用料3割負担のペナルティ」が課されている人数を自治体別に教えて下さい。

(3) 要介護認定者に「障害者控除対象認定書」を交付すること。

(4) 「改正」介護保険法は、介護利用者や介護事業所、自治体にとっても多大な影響を及ぼすものです。東京都として以下に取り組むようを要望します

ア 訪問介護及び通所介護の地域支援事業への移行に当たっては、利用者のサービス選択の意思を十分に尊重するとともに、現行サービスの内容を維持し、区市町村間においてサービスの質や内容などに格差が生じないよう、都として区市町村に指導・援助をして下さい。

イ 軽度の要介護者であっても、個々の事情を勘案し必要に応じて特別養護老人ホームへの入所が認められるよう、都としてや区市町村や施設に対して適切な指導をして下さい。

ウ 補足給付の資産要件導入に伴い、退所せざるを得ない状況が生じています。都として実態調査を実施して下さい。

(5) 特別養護老人ホームの入所待機者は全国で52万人を超え、東京都でも4万3千人を超えるなど介護施設不足は深刻です。待機者解消に向けて、特別養護老人ホームの用地費助成の復活と都有地活用を推進するとともに、低額で入居できる高齢者向け住宅の建設などを東京都の責任ですすめて下さい。

(6) 急増する認知症への対策が急務です。東京都は独居や高齢者のみの世帯が多く、今後とも増加することが予測されます。都として自治体や事業者任せにすることなく、認知症への対応と予算措置の拡充を強化してください。グループホーム建設や既存施設への助成をすすめて下さい。

- (7) 改正介護保険法によって、要支援 1・2 の訪問介護・通所介護が予防給付から地域支援事業に移行しました。要支援者の訪問介護・通所介護を予防給付に戻すよう国に要望をしてください。あわせて、「補足給付の支給要件の変更」「利用料 2 割負担」「多床室での部屋代負担」の制度改正を撤回するよう都として国に要望して下さい。
- (8) 介護事業者と介護労働者が充実したサービスを利用者に提供できるよう、介護報酬を大幅に引き上げる緊急改定を国に要望して下さい。

2 介護労働について

- (1) 介護施設で働く人たちの労働条件が悪いため、定員が確保できない状態が続いています。こうした事態を解消するために、次のことに取り組んで下さい。
- ア 介護職員の処遇を改善するために、東京都独自の制度（たとえば、介護事業所への人件費補助）を設けること。
 - イ 介護職員処遇改善交付金を復活するよう国に要望して下さい。
 - ウ 「介護・障害福祉従事者の人材確保のための介護・障害福祉従事者の処遇改善に関する法律」が実効あるものとなるよう国に要望して下さい。
- (2) 訪問介護事業所で働く介護従事者の 68% が直行直帰の登録型雇用で働いています。直行直帰の登録型雇用を廃止するよう国に要望して下さい。

平成28年11月22日

介護従事者の処遇改善に関する陳情

東京都議会議長
川井 しげお 殿

陳情者

〒170-0005 豊島区南大塚 2-33-10 東京労働会館 6 階

電話：03-5395-3165 Fax：03-3946-6823

介護をよくする東京の会

事務局長 相川 和義

【願意】

都において、次のことを実現していただきたい。

- 1、介護報酬による加算ではなく、国の一般財源を活用して、介護職員の処遇改善を図るよう国に要望すること。
- 2、都として、介護職場で働く多くの職員を対象にした、恒久的な処遇改善の施策を実施すること。
- 3、都内の区市町村に、介護職員確保のための処遇改善等の施策を行うよう指導すること。

【陳情趣旨】

昨年4月の介護報酬改定がマイナス2・27%改定のなかで、「介護職員処遇改善加算」は1・65%アップし、1人当たり12、000円相当分の引き上りになりました。

しかし、「処遇改善加算」が介護報酬のマイナス改定と同時に行われたため、こうした処遇改善の施策が実施されたにも拘らず依然として介護の人材不足は改善せず、介護事業所は慢性的人手不足となっており、特別養護老人ホームでは過半数の事業所が定員に満たない状況となっています。また、このまま推移すれば、2025年には介護職員が30万人不足するとも言われています。

こうした中で、介護労働者の処遇改善は緊急の課題であり、何よりも優先する事案だと考えます。そのため、介護労働者の処遇改善を図るには東京都の役割が大変重要だと考えます。

つきましては、東京都が介護労働者の処遇改善を図ることを求めて陳情します。

介護労働者の処遇改善に関する要望

東京都知事 小池 百合子殿

2016年11月22日

介護をよくする東京の会

豊島区南大塚 2-33-10 東京労働会館 6 階

(東京社会保障推進協議会内)

電話：03-5395-3165 Fax：03-3946-6823

都民の健康と暮らしを守るためにご奮闘されていることに敬意を表します。また、私どもの活動に対するご協力に感謝申し上げます。

昨年4月の介護報酬改定がマイナス2・27%改定のなかで、「介護職員処遇改善加算」は1・65%アップし、1人当たり12、000円相当分の引き上りになることが厚労省からも報告されました。

しかし、こうした処遇改善の施策が実施されたにも拘らず、介護報酬本体の引き下げと同時に行われたため、依然として介護の人材不足は改善せず、特別養護老人ホームで過半数の事業所で定員に満たないことや、2025年には介護職員が30万人不足するなどの報道がされています。

こうした中で、私たちは介護労働者の処遇改善は緊急の課題であり、何よりも優先する事案だと考えています。そのために、介護労働者の処遇改善を図るために、東京都の役割が大変重要だと考えています。

つきましては、東京都に介護労働者の処遇改善に関する要望をさせていただきます。ぜひ、私どもの要望をご理解され、東京都の施策に反映させてくださるよう要望いたします。

記

- 1、介護報酬による加算ではなく、国の一般財源を活用して、介護職員の処遇改善を図るよう国に要望をしてください。
- 2、東京都として、介護職場で働く多くの職員を対象にした、恒久的な処遇改善の施策を実施してください。
- 3、各自治体に、介護職員確保のための施策を行うよう指導してください。
- 4、都内にある介護専門学校に対して、東京都として運営費補助を行ってください。また、学生確保のために何らかの施策を行ってください。

厚生労働大臣 塩崎 恭久 様

憲法をいかして安全・安心の介護の実現を求める要請書

日ごろの介護保険行政へのご奮闘に心より敬意を表します。

2015年4月1日から介護保険の見直しが実施されました。1年経過した現在、特別養護老人ホームの入所対象の見直しによる家族介護の深刻化、現役並み所得者の利用料の2割負担によるサービス利用の制限など新たな困難が生まれています。

また、2017年度中に要支援1・2の訪問介護・通所介護の地域支援事業への移行が進められていますが、保険者である自治体では受け皿となるサービスが準備できないなど、移行への新たな困難を生み出しています。

昨年末、政府は年間10万人以上の人たちが介護を理由に仕事を辞めざるを得ない事態を打開するために「介護離職ゼロ」を打ち出しました。施設・在宅サービスを従来の計画から12万人分上積みして整備することが施策に盛り込まれていますが、施設・サービスの拡大にはそれを支える介護職員の確保がなければ実現しません。介護現場ではたらく労働者の賃金が民間労働者より9～10万円低い実態の解決なしに人材の確保はできません。

2025年の高齢化社会に向けて誰もが安心して老後を迎えられるために介護保険制度の改善、介護人材確保のための労働条件改善はまったなしの課題です。

しかし、介護保険部会が2月17日に再開され、2017年通常国会へ新たな介護保険改定（案）が検討されているとのことです。その内容は、介護保険利用者は要介護3以上に限定することや利用料の窓口での全額自己負担（償還払い制度の導入）など新たな困難が予測される内容となっています。

憲法25条でうたわれている生存権を保障し、安全・安心の介護が実現されるよう下記の項目について要請いたします。

記

- 1、地域支援事業への移行をはじめ、「改正」法施行に伴ってサービスの利用に支障が生じないよう必要な対策を講じること、国の財政支援を強め、施設などの基盤整備の強化をはかること。
- 2、軽度者のサービスの介護保険適用除外や利用料の引き上げなど、新たな給付制限・負担増をもたらす制度の見直しはおこなわないこと。
- 3、介護職場で働く労働者と、他の産業の労働者との賃金格差を早急に解決するために、格段の対策を強化すること。
- 4、3月末発表の「介護従事者処遇状況等調査」を踏まえて、処遇改善が抜本的に改善されたと考えますか。調査結果についてのレクチャーを後日開催して下さい。

中央社会保障推進協議会

〒110-0013 東京都台東区入谷 1-9-5 事務局長 山口一秀
TEL/03-5808-5344・FAX/03-5808-5345 K25@shahokyou.jp